

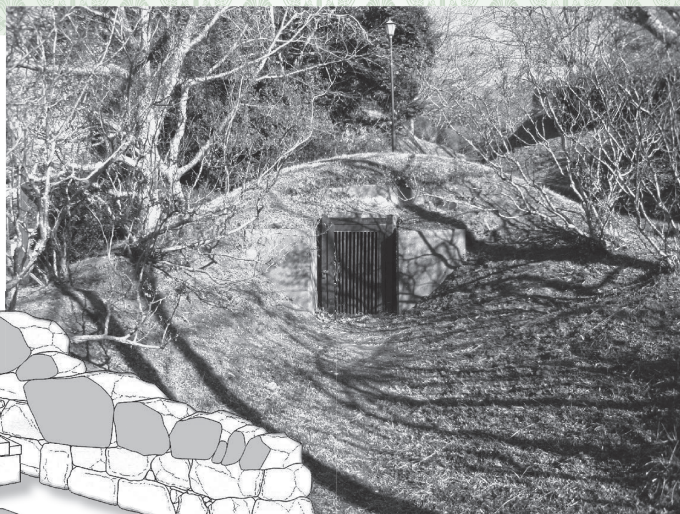
取産 香遺

Vol.92

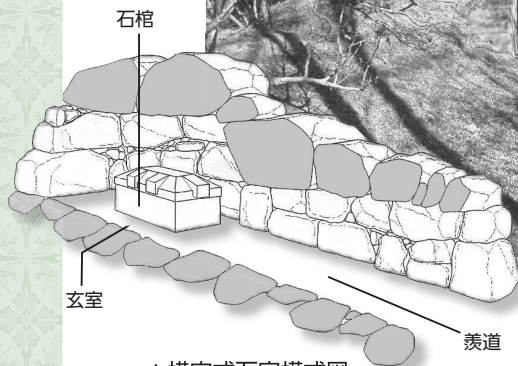
城山1号古墳

千葉県を代表する

横穴式石室
よこあなしきせきしつ



▲城山1号古墳の復元石室



▲横穴式石室模式図

小見川城山公園にある忠霊塔の入口横に、石を積んで造った洞穴のようなものがあります。これは、小見川高校建設によって昭和38年に発掘調査された、城山1号古墳の横穴式石室を移築・復元したものです。

が、それを取り外せば再び出入りが可能となるため、同じ石室内に後から別の人物を埋葬すること（追葬）が容易になりました。

古墳の埋葬施設にはさまざまなものがありますが、その代表例が石室です。石室は、石を積み上げて棺を納める部屋を造ったもので、竪穴式と横穴式があります。竪穴式石室は、板状の石を積み上げて部屋を造り、上から蓋をして密閉するもので、古墳時代前半の大型古墳に多く用いられました。横穴式石室は、大陸

城山1号古墳の横穴式石室は、玄室長4・5m、幅1・7m、羨道長2・2m、幅0・9mで、天井の高さは1・5mです。両側の壁は数十cmの大きさの石を積み、奥の壁と天井には1m以上の大きな石が使われています。床には玉砂利が敷きつめられ、多くの副葬品が見つかりました。

半の大型古墳に多く用いられました。横穴式石室は、大陸の影響を受けて古墳時代後半に普及したもので、部屋の側面に通路をつけて外部から出入りできるようにしたものです。

横穴式石室は、棺を安置する玄室と外部からの通路である羨道からなります。埋葬後

は入口を石や粘土で塞ぎます

千葉県では横穴式石室が造られるのは6世紀中頃からです。城山1号古墳は、県内で最も古い横穴式石室の1つで、関東の横穴式石室研究上、欠かせないものとなっています。また、出土した副葬品は県の有形文化財に指定され、現在はいぶき館内の文化財保存館で展示しています。

問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224